

令和6年度学校自己評価表

米子松蔭高等学校

教育目標	【建学の精神】社会で真に役立つ実践的な人材の育成	今年度の重点目標	1. 一人ひとりの生徒への誠実な対応 2. 教員の指導力向上 3. 学習指導要領への対応 4. 国際教育の推進 5. 校務の合理化
------	--------------------------	----------	---

年度当初					最終評価	
評価項目	具体項目	現状	目標（年度末目指す姿）	目的達成のための方策	評価	経過・達成状況・改善方策
1 一人ひとりの生徒への誠実な対応	環境整備の徹底と防災対策の充実	破損個所の修繕については比較的速やかな修繕が行われている。	生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を作る。	日々の清掃については凡事徹底する。また教室の内装で古くなっている箇所を中心に新しくする。	A	日々の清掃活動を中心に生徒の積極的な取り組みを促すよう指導することができた。
	学校と保護者との協力関係の構築	コロナ前の活動ができるようになり、保護者の方の積極的な学校行事への参加が見受けられるようになった。	引き続き学校行事に参加しやすい状況を作る。	BLENDを活用し、連絡を密に取ることで、情報発信ならびに各種行事への参加を呼びかける。	A	松萌会活動、学校行事に積極的な参加が見受けられた。
	基本的生活習慣・公共心の育成	社会生活においてのマナーやモラルが遵守できていない生徒に対して規範意識の育成が必要である。また、昨年度からヘルメット着用を通学許可条件としたが着用率が低く安全意識の高揚と啓発が必要である。	基本的生活習慣の定着を図る。規範意識を向上させる。自転車ヘルメット着用率の向上を図る。	「あいさつ」「時間」「身だしなみ」「交通マナー」を中心に各HRにおいての指導、立ち番指導等で意識向上を図る。	B	本年度も交通マナーやJR利用について近隣の方からご指摘をいただくことがあった。引き続き学校内外での規範意識について様々な機会を通して継続して指導を行う。
	様々な生活指導上の問題の防止	特にSNSに起因する問題行動が増加している。	情報モラル・リテラシーを育みトラブルを防止する。	デジタル・シティズンシップ教育（講演会含む）を推進する。	B	講演会を開催したが、その後もいくつかのトラブルが発生した。SNS対策を中心としたデジタル・シティズンシップ教育の推進に力を入れていきたい。
	各部署と連携をとり、生徒の相談と支援の実施	支援が必要な生徒の増加、多様化に対し、学年部と連携し教育相談・支援を行っている。	学校全体で理解を深め、適切な支援を行う。	切れ目のない支援のための引継ぎを行う。適切なアセスメントを実施する。学校内外の連携を深める。	A	中学校からの引き継ぎの多くは、問題が顕在化することなく学校生活に適応できている。必要に応じて学年・保護者・SC・SSWと連携を取りながら支援にあたった。
	学校行事等を通じて生徒の自主自律の精神を育てる	学校行事やイベントへの参加を通じて、生徒ひとりひとりが主体的に考え行動できる生徒会を目指す。また、生徒会だけでなく生徒全体が主体となるイベントを目指す。	学校行事を充実させる。生徒会活動を充実させる。部活動との連携を深める。	学校行事の開催に向けて早めに計画を立て、より良いイベントが実施できるよう準備する。学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。	A	生徒が主体となって、学校行事の成功をおさめることができた。引き続き様々なイベントの企画・運営を行い、思い出に残るような行事を目指して取り組む。

2 教員の指導力向上	授業評価の実施（年2回）	生徒による授業評価アンケートを7月及び12月に実施する計画を進めている。	年2回の授業評価アンケートを実施し、分析結果をもとに振り返りを行う。	授業改善に繋がれるように、全教員の授業評価を実施する。	A	年2回の授業評価アンケートを計画通りに実施した。評価結果を個人の分析で終わることなく、教科の分析結果を全教員で共有することで、学校全体の授業改善に繋がるよう努めた。
	1人ひとりの可能性を最大限伸ばし、希望の進路を実現する体制を強化し進路実績を高める	受験の形式が複雑なため、生徒一人一人とコミュニケーションをとり、指導にあたる必要がある。また、難関大を目指す生徒へのサポート体制を構築しなければならない。	昨年度に引き続き、多くの教員が志望理由書作成指導や小論文指導が出来る体制を構築する。より効果のある内容を模索し、希望進路の充実度を向上させる。	教員対象の小論文研修会の実施など教員が学ぶ機会を設ける。	B	年内入試の対応を中心に生徒一人一人の進路実現に向けての指導体制を整えることができた。次年度は一般選抜での合格者を増やす取り組みを充実させたい。
	生徒の人権意識を高め、思いやり・倫理観の育成	人権感覚が高く、自他の人権・権利を大切にできる生徒が多い一方、教室等不適切な言葉遣いの生徒も少数ある。	言葉・表現の問題を通して、お互いの尊厳を認め、不適切発言・表現を許さない技能・態度を身につける。	人権ホームルーム学習、講演会、言葉遣いアンケート、毎日の学校生活を通じ、技能・態度を養う。	B	各クラス・部活動における言葉・表現問題、人権教育の諸問題を通じ、生徒の人権感覚の養成に努めた。しかし、少数生徒の不適切な言動が明らかとなった。不適切な言動に早急に対処し人権啓発を進めたい。
	授業計画書の提出と振り返り	全授業の授業計画を立て、学期ごとに自己評価と振り返りを行っている。	各学期末の自己評価を授業改善に繋げる。	生徒による授業評価アンケートを活用し、自己評価を俯瞰的に分析できるようにする。	A	授業計画書を学期ごとに作成し、授業の振り返りを行った。自己評価と生徒による授業評価を比較しながら客観的に授業を分析することにより、教科指導の改善に繋げることができた。
3 学習指導要領への対応	新しい学力観に立脚した教育の推進	生徒の思考力や問題解決能力を育むために必要な学習内容や到達目標、評価方法を教科内及び全教員で共有している。	生徒が日々の学習の中で粘り強く取り組めるように、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の評価を元に支援を継続している。	生徒の実態や目標に沿ったものになるように、教科ごとに随時情報交換をする。	A	教科ごとに各観点の目標達成状況や生徒の学習状況を共有しながら学習指導を行った。教科の枠を超え教員同士で授業を公開する相互授業見学を継続的に実施し、学習指導要領に沿った学力観を育む効果的な指導の方策を考察する機会を増やすよう努めた。
4 国際教育の推進	グローバル人材の育成	現在、海外からの留学生がおり、他の生徒たちと異文化交流を行っている。また、昨年度は澳門より学校訪問の生徒を迎え、生徒との交流を行った。	豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を有し、国際社会で活躍できる人材を育成する。	留学生の受け入れを推進する。留学生を通じた異文化交流を推進する。海外の学校との相互交流を行う。	A	現在1年生、3年生に留学生が在籍し、本校の生徒と交流を深めている。また、今年度は澳門培正中学より2回来校し、部活動、クラス活動などで本校生徒とのコミュニケーションを図れている様子が見られた。
5 校務の合理化	学校行事の円滑な運営	感染症の感染対策を継続し、学校行事を運営している。	安全かつ合理的に学校行事を運営する。	早期に緻密な計画を立てるよう努める。	A	具体的な計画を早期に立てると共に、必要な感染症対策を行って安全に学校行事を運営した。
	円滑で正確な入学試験事務の実施	Web出願について中学校より、よい意見を多数いただいている。	受験生、中学校、本校にとってよりよい入試を実施する。	Web出願の機能を活用し、出願から合否発表までの流れの円滑化を図る。	A	出願から合否発表、入学金手続まで円滑に業務遂行することができた。今後は日程調整について検討の余地がある。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：目標・方策の見直し